

ウジュード／空白の海・岸

舞いちる空白の飛沫をあび 冷えきろうとするひかりに
濡れて 4月のことばの岸は 水色の沈黙にそまり。

誰かがさざ波に手のひらをひたしてほほえみ 風の乱れ
が記憶のなかにながれてゆく・・・ 破線を岸として、
かたられえないものをためているなみのうちがわに（
かなしい夢をみるという）とうめいなさかなたちの物語
をしずめよう。とけてゆく物語の どこかかよわいぶぶ
んが泡となり 泡となりながら季節をうつしてはきえる
空白の海にどんな波音もなく・・・

破線を岸として・・・

あらゆるきずついた文字のいたいたしさにふれてゆく波
の、そのなかにおりたたまれる季節をいま四月として岸
とする破線の あざやかなどんな彩色もわすれよう。
むこうがわの空白もともすればあおくみえるとしてもそ
れは錯覚にすぎない、 ゆるやかによせているのだろう
その波も見えはしないのだから。

水／みずに濡れる水の つややかさを打つ風はあおざ
めて空白の飛沫にとけこんでは散り

破線を岸とする・・・ その海辺をどこまでもあおくそ
める・・・。